

## 製品・サービス動向-国内

■プリンストン：「Microsoft Teams」や「Zoom」の認定を取得している Yealink 社のビデオ会議ソリューションの国内販売開始、さまざまな Web 会議環境のほか会議室の大きさやレイアウトに柔軟に対応、今後、ATEN 製品との連携も予定

（取材：8月24日）

株式会社プリンストン (<https://www.princeton.co.jp/>)（東京都港区）と ATEN ジャパン株式会社 (<https://www.aten.com/jp/ja/>)（東京都荒川区）は、8月24日と25日、ATEN ショールームにおいて、共同でセミナー&製品内覧会をリアルとオンラインのハイブリットで開催。今回、プリンストンが出展・講演した Yealink 社のビデオ会議ソリューションを取材した。



会場での Yealink 製品展示

プリンストンは、2001年より ATEN 製品の取り扱いを開始、ATEN パートナーとして20年以上の実績と経験がある。社内には ATEN 製品専任のテクニカルメンバーが在籍しており、お客様の課題解決・ニーズ

に最適な ATEN ソリューションの提案および提供が可能となっている。

加えて、独自のオンサイト保守サービス（一部製品）、ATEN 社 VK シリーズコントロールシステムの構築サービスなど、プリンストンとして独自のサービスも提供している。VK シリーズは、室内の AV 機器や照明、空調などをタッチパネルで制御可能なコントロールシステムで、他のシステムとのインテグレーションサービスにも対応している。

プリンストンは、一方、90年代から長年ビデオ会議システム市場において国内有数のリセラーとして知られており、昨今オンラインコミュニケーションが主流となっている中で、さまざまなユーザの要望に合わせた会議室環境の構築をしっかりとサポートできる製品が求められており、国内での ICT 製品のラインナップや販売を強化する取組みを行っている。

今回記事で紹介する Yealink 以外にも、「Poly」、「Webex」、「Neat」、「DTEN」各社の専用ハードウェア（ビデオ・音声）及び周辺デバイスを提供している。また、Webex、Zoom、Pexip 各 Web 会議サービスライセンスの販売も手掛けている。

その強化の一環として、同社では Yealink 社（中国・アモイ）と販売代理店契約を締結。Yealink 社製品の国内での取り扱い開始を1月31日に発表した。

Yealink は、現在のビデオコミュニケーションの主要なプラットフォームである Microsoft Teams や Zoom に対応したビデオ会議端末および IP 電話機(SIP フォン)、USB カメラやマイクスピーカーフォンなど周辺機器を幅広く提供している。

2001年の創業以来、高い技術力をベースに高品質な製品を開発することで、急速に世界シェアを伸ばし

てきた。現在では140カ国以上の国・地域においてビジネスを展開し、2017年からIP電話機（SIPフォン）のグローバルシェア1位を獲得している（米国フロスト&サリバン調べ）。

プリンストンがYealinkのビデオ会議ソリューションを推奨するポイントのひとつは、さまざまなWeb会議環境に対応しているという点。

Yealinkでは、Web会議環境に合わせて3つのモデルを用意している。

（1）「MVCシリーズ」（Teams Rooms対応）および「ZVCシリーズ」（Zoom Rooms対応）。専用PCとタッチコンソールのコアキットに、ビデオバーやカメラ、マイクなど必要なデバイスを組み合わせたモデル。

#### ● MVCシリーズ / ZVCシリーズ



標準パッケージのほか豊富なラインナップからカスタマイズも可能なMVCシリーズ/ZVCシリーズ（プリンストン資料）

このモデルシリーズでは、カメラ、マイク、スピーカーなど複数台数含めカスタマイズ組み合わせが可能となっている。また、デバイス用のアカウントが必要になるが会議プラットフォームで一貫したエクスペリエンスを提供する。さらに、常設デバイスとして、会議準備の手間不要、ワンタッチ会議ジョインのほか、管理機能やセキュリティも充実している。PC資料をワイヤレスで共有する機能（「RoomCast ワイヤレスプレゼンテーションシステムやワイヤレスプレゼンテーションロボット「WPP20」「WPP30」）もある。

ちなみに、カメラ製品の中には、4K対応高倍率&高機能PTZ「UVC86」も用意されており、20.4倍の

高倍率ズームのほか、AIによる優れたカメラ制御（プレゼンタートラッキング）も搭載されている。

（2）Teams RoomsやZoom Roomsに加えBYOD（Bring Your Own Device）にもマルチに対応した製品である「MeetingBar Aシリーズ」。

ビデオバーとタッチコンソールの組み合わせで提供されるモデル（会議室規模に合わせて「A10」「A20」「A30」と用意）。なお、フォーカス/ハドルルーム向けA10についてはパソコン用モニター上部にも設置可能。卓上マイク（有線/無線）の追加も可能となっている。

#### ● MVCシリーズ / ZVCシリーズ



#### MeetingBar Aシリーズ（プリンストン資料）

（3）さまざまなWeb会議プラットフォームに対応した、ビデオバーやカメラなどUSB対応ビデオ製品。デバイス用のアカウント不要のため、高いコストパフォーマンスに特徴がある。

「Yealink社は、マイクロソフト社やZoom社から認証を得ている製品も提供している。コストパフォーマンスにも優れており、小会議室から大会議室・セミナールームなど会議室の大きさやレイアウトに柔軟に対応することができるという点も強みといえよう。その中で、ワイヤレスプレゼンテーションロボットは会議室では利便性が高く、また、AI対応カメラによるプレゼンタートラッキングは精度の高さで定評がある。今後、ATEN社のコントロールシステムがYealink製品に対応する予定もある。」（プリンストン）

プリンストンによると、これまでのビデオ会議での長年の経験と知識を基に、ATEN及びYealink製品と

も、導入の検討からデモの検証、納品及び設置、使い  
方トレーニング、アフターサービスまで対応するとい  
う。

## ■ZVC Japan：Zoom AI Companion を導入有 料アカウントユーザは追加料金なしで利用 可能、プラットフォーム全体を通して利用 可能に、秋から来春にかけて機能追加を予 定

(PR TIMES:9月11日)

ZVC Japan 株式会社 (<https://zoom.us/>) (東京都  
渋谷区) は、Zoom の有料サービスアカウントに対し、  
追加料金なしでジェネレーティブ AI デジタルアシス  
タント「Zoom AI Companion」(旧称：Zoom IQ) の  
提供を開始した。



### Zoom AI Companion イメージ (写真提供：ZVC Japan)

Zoom が6月初旬にジェネレーティブ AI を導入して  
以来、すでに数千社にのぼる企業が無料トライアルで  
チームチャット作成とミーティングサマリー機能を利用  
している。この秋、Zoom を利用しているお客様は、  
「Meetings」「Teams Chat」「Phone」「Email」  
「Whiteboard」などプラットフォーム全体を通して  
AI Companion を利用できるようになり、今後さらに  
機能が追加される予定となっている。

Zoom は、AI に対してフェデレーテッドアプローチ  
(federated approach)を採用しており、自社開発の大

規模言語モデルとサードパーティのモデル (Meta  
Llama 2、OpenAI、Anthropic など) をダイナミック  
に活用することによって高品質の結果を引き出し、コ  
ストを削減しているという。

また、Zoom はユーザエクスペリエンスと生産性の  
向上をもたらす AI を活用したイノベーションに投資  
する一方で、信頼、安全性、プライバシーを最優先に  
考えることを目標としている。8 月にはオーディオ、  
ビデオ、チャット、画面共有、添付、その他のコミュ  
ニケーション関連のカスタマーコンテンツを使用して  
Zoom またはサードパーティの AI モデルをトレーニン  
グすることはないと発表もしている。AI Companion  
はデフォルトではオフになっており、アクティブ化  
すると、管理者とユーザによる設定が可能になり、可  
視化される仕様になっているという。

AI Companion のいくつかの新しいリアルタイム AI  
機能はすでに利用可能であり、Meetings、Team Chat、  
Whiteboard、Zoom Mail、Notes、Phone において、  
今後今年の秋から来年の春のうちに追加機能をローン  
チする予定。また、Meetings で可能な AI Companion  
との対話機能は 2024 年春には Zoom プラットフォー  
ム全体で利用できるように拡大していく予定という。

※AI Companion の詳細：

<https://explore.zoom.us/en/ai-assistant/>

※Zoom の利用規約と慣行が AI 機能に適用される仕組み

<https://blog.zoom.us/ja/zooms-term-service-ai/>

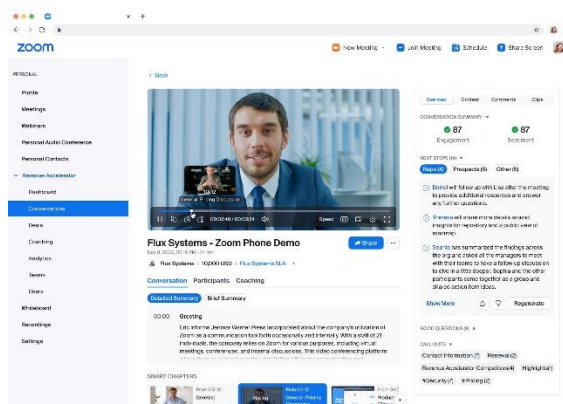
## ■ZVC Japan: 「Zoom IQ for Sales」の名称を 変更し、新たに「Zoom Revenue Accelerator」を発表、今秋、機能を拡張 し新機能も発表

(PR TIMES：9月14日)

ZVC Japan 株式会社 (<https://zoom.us/>) (東京都  
渋谷区) は、会話インテリジェンスソフトウェア



「Zoom IQ for Sales」を「Zoom Revenue Accelerator」として再ローンチすることを発表。



Zoom Revenue Accelerator イメージ  
(写真提供：ZVC Japan)

お客様からのフィードバックを重視する Zoom は、「Zoom IQ for Sales」という名称では製品が持つパワーが伝わらないという意見をうけ、製品を継続的に進化させていく中で、そのビジョンや営業チームが顧客とのやり取りから有意義で実用的なインサイトを引き出せる機能をより端的に表現したいと同社では考えたという。

また、直近四半期に Zoom IQ for Sales の売上高は第一四半期比 400%増と大幅にアップしており、このアプリケーションの威力とジェネレーティブ AI を利用して収益パフォーマンスを高める機能への関心の高さ示していると説明する。

Zoom Revenue Accelerator は、ミーティングの要約、チャプター要約、センチメント（感情）、エンゲージメント、トーク/リスニング比率、次のステップや適切な質問のインテリジェント自動抽出、営業ミーティングのフォローアップを支援するメールスマート作成機能など、数多くの AI 機能を備えている。Zoom はこれらの機能を継続的に拡張し、新しい AI 機能を追加することにより収益チームのスキルアップと継続的なパフォーマンス向上を可能にし、カスタマーエクスペリエンスと収益の向上につなげていく計画だ。

この秋、Zoom は Zoom Revenue Accelerator を拡張

し、営業チーム向けの新機能として、カスタマイズできるダイナミックなトレーニング環境を提供する「Virtual Coach」、営業チームで一定期間に取引がすすんでいない場合にアラートを送信する「Deal Risk Signals」、営業コールでの競合他社に関する言及を追跡しトレンドを把握できる「Discover Monthly」を発表する。

## ■ Neatframe：可動式のオールインワンビデオ会議デバイス新製品「Neat Board 50」の国内販売開始

(Dream News:9月12日)

Neatframe 株式会社 (<https://neat-japan.com/>) (東京都中央区) は、オールインワンのビデオ会議デバイスの新製品「Neat Board 50」を10月1日から日本市場で販売開始する。



Neat Board 50(写真提供：Neatframe)



Neat Board 50 使用イメージ(写真提供：Neatframe)

Neat Board 50 は、4K の 50 インチ マルチタッチ LCD ディスプレイに、113 度の水平視野と高速画像処理を備えた特注の 5000 万画素カメラの他、5 つのマイクのエンドファイアアレイ、5 つの追加センサーマイクなどを搭載した可動式のオールインワンビデオ会

議デバイス。

また、「Neat Active Marker」が付属しており、これをスタイラスペンとして使用することで、手書きで書いた図やスケッチを共有してクリエイティブなワークショップをオンラインで行ったり、文章やグラフィックデザインを明示的に修正して個性的なプレゼンテーションスライドを作成したりできる。



Neat Board 50 使用イメージ(写真提供：Neatframe)

オプションで、アダプティブスタンド、またはアダプティブウォールマウントを選択すると、スクリーン自体の高さを自由に調節できるようになっている。

Neat Board 50 は、コラボレーションが必要な場所へ簡単に移動することができるため、通常の会議利用に加え、オープンスペースの一面において自由にアイデアを出し合うような打ち合わせの場や、別のチームの人と突発的に意見交換をするような場、ゆるやかに区切られた場所においてチーム全員で集中して作業を行う時などに最適という。「Zoom Rooms」と「Microsoft Teams Rooms」に対応している。

\*Millions of Minds Become One (日本語字幕)

[https://www.youtube.com/watch?v=JqaLQBq8o\\_w](https://www.youtube.com/watch?v=JqaLQBq8o_w)

## ■GN オーディオジャパン：Android OS 搭載の「PanaCast 50 Video Bar System」を 9 月より発売、タッチコントローラーによりワンタッチで手軽にハイブリット会議を実施

(PR TIMES：9月12日)

GN オーディオジャパン株式会社 (<https://www.jabra.jp/business/video-conferencing>) (東京都港区) は、高性能ビデオバーシステム「PanaCast」シリーズより、Android OS 搭載の「PanaCast 50 Video Bar System」を9月より発売する。

PanaCast 50 Video Bar System は、180° パノラマ 4K 対応のカメラと高品質なオーディオ (8 本のマイクと 4 台のスピーカー) を一体型にしたインテリジェントビデオバー「PanaCast 50」に Android を搭載させ、タッチコントローラー「PanaCast Control」を付属させることで、ワンタッチでオンライン会議の開始・参加を可能にした。6~10 人程度の小・中規模会議室に対応している。



Jabra PanaCast 50 Video Bar System  
(写真提供：GN オーディオジャパン)



Jabra PanaCast 50 Video Bar System と PanaCast Control  
使用イメージ (写真提供: GN オーディオジャパン)

PanaCast 50 の性能は維持しているため、180° 視野のパノラマ 4K ビデオで室内全体を映し出し、8本のマイクと4台のスピーカーにより対面で話しているかのような、参加者の臨場感溢れるクリアな音声を届けることができる。また、Jabra 独自の AI システムで発言者を自動で検出し焦点を合わせるバーチャルディレクター機能や、デバイスに搭載されたセンサーと AI により、会議室内の人数や着座位置などを含む使用状況をリアルタイムで表示するピープルカウント機能を使用できる。

Android OS の搭載により、オープンプラットフォームとして、ハードウェアレベル、OS レベル、アプリケーションレベルの管理・セキュリティを統合的に行うことで、管理工数の削減やセキュリティリスク回避を可能にするという。

また、PanaCast Control も付属させることで、個人もしくは操作専用の PC を持ち込まずとも、会議が開始できるようになった。

PanaCast Control には3つのセンサーが搭載されている。1つ目はパッシブ赤外線と人体感知センサー (PIR) で、人を感知し、近づくと瞬時にシステムを起動させるため、会議を短時間で始めることができる。2つ目は、超音波エミッターで、「Zoom Direct Share」をサポートしており、ワイヤレスでプレゼン資料を会議参加者へ共有することができる。3つ目は、環境型センサーで、湿度、温度、二酸化炭素などを検知する

ことができるため、会議室内をいつでも安全でクリーンな環境に保つことに役立つ。

その他、HDMI 有線によるコンテンツ共有、近接接続 (「Microsoft Teams Rooms Proximity Join」)、デュアルディスプレイ対応などの特徴がある。

Jabra PanaCast の製品シリーズに、ルームソリューションとして PanaCast 50 Video Bar System が加われば、すでに提供されている BYOD やルームシステムソリューションとともに、ハイブリッドミーティングのエクスペリエンスを大きく向上させることができるという。

## ■ リコー：コミュニケーションシステム 「piglyph」、オンライン会議での会議進行をサポートする機能を新たに実装し、トライアル提供を開始

(PR TIMES:9月13日)

株式会社リコー (<https://www.ricoh.co.jp/>) (東京都大田区) は、対話をグラフィック変換しコミュニケーションをサポートするビジュアルコミュニケーションシステム「piglyph (ピグリフ)」 (<https://piglyph.com/>) において、会議を活性化させるための機能を拡充し、2023年9月13日からトライアル提供を開始する。

Piglyph は、音声や入力された文字に紐づいたグラフィックがリアルタイムで画面上に提案され、その中からイメージに合ったグラフィックを選んで利用できる、対話の可視化システム。

β版を2023年1月にリリースして以降、ユーザ検証で得られた結果をもとに機能をアップデートした。Piglyph をより多くのお客様に活用してもらうため、導入しやすいトライアル版にて提供する。

今回提供するトライアル版では、双方向なコミュニケーションが起こりにくいオンライン会議において、メンバー同士のコミュニケーションを活性化させるこ

とと同時に、会議を円滑に進めることができる「ファシリテート機能」を拡充した。

参加メンバーをキャンパス内の特定の場所に集合させる機能により、メンバーに注目したい議題を明確に示すことで、議論が散漫にならないよう進行を促すことができるようになっている。

また、メンバーのコメントが書き込める付箋紙や、アイデアをまとめるフレームをはじめとした各種テンプレートを活用することで、議論の弱点が整理できコミュニケーションの活性化につながるという。加えて、発言編集機能によって必要な発言のみ選別し、議事録をすっきりと整理することもできる。

リコーによると、piglyph を用いたオンラインでの対話検証では、piglyph を活用することで 96.3%の方が議論の活性化を感じ、対話の発生量も 1.5 倍に向上したという。また、piglyph を活用した議事録における検証では、議事録を読む意欲が向上し、会議への参加意欲も向上した結果が出たという。

\*対話の可視化システム「piglyph (ピグリフ)」

<https://youtu.be/jLOWtYOHnQI?si=Wd0D0M1SQ76Bfz>

## ■エレコム：5～8 名規模の会議室に最適な 会議用スピーカーフォンを 9 月上旬より販売開始

(PR TIMES：9 月 5 日)

エレコム株式会社 (<https://www.elecom.co.jp/>) (大阪市中央区) は、5～8 名規模の会議室に最適な会議用スピーカーフォン「LBT-SP03BK」を 9 月上旬より発売開始する。価格はオープン。

本体には、4つの無指向性 MEMS マイクを搭載し、360 度全方位から半径約 3m の範囲で收音が可能。5～8 名程度の部屋での会議などに最適という。

加えて、エコーやハウリングを抑える「エコーキャンセラー」、マイクからの距離や声量の違いで生じる音量差を低減し聞きとりやすいよう最適化する「オー

トゲインコントロール」、マイクで收音した周囲の環境音からノイズ成分をカットし通話相手に声をクリアに伝えることができる「ノイズリダクション」などの機能も搭載している。



会議用スピーカーフォン「LBT-SP03BK」  
(写真提供：エレコム)

一方、スピーカーについては、大口径直径約 41mm のスピーカードライバーユニットを搭載し、聞きとりやすいクリアな音声を実現している。また、直径 3.5mm ステレオミニジャックを搭載しているためお手持ちのヘッドセットやイヤホンを接続することも可能。

本体は、タッチ操作で音量調節、マイク ON/OFF の操作ができるようになっている。また使用時には、付属の USB ケーブルによる有線接続、Bluetooth による無線接続の両方に対応している。Bluetooth 接続の場合は、付属の Bluetooth USB アダプタをパソコンの USB-A ポートに差し込むだけで、Bluetooth 接続が可能 (ペアリング) となり、複雑な初期設定をせずに簡単にワイヤレス接続ができる。

その他、USB バスパワー給電だけでなく、内蔵バッテリーも搭載している。最大 12 時間の連続通話に対応している。

「Zoom」「Microsoft Teams」「Skype for Business」「Google Meet」「Cisco Webex」「Slack」などの Web 会議に最適という。



## ■アバー・インフォメーション：AI 自動追尾 リモートカメラなどの新製品 5 機種を発売

(PR TIMES：9月1日)

アバー・インフォメーション株式会社  
(<https://jp.aver.com/default.aspx>) (東京都新宿区)  
は、PTC シリーズと PTZ シリーズにおいて、AI 自動  
追尾リモートカメラなどの新製品 5 機種を発売する。  
受注生産 (納期は受注から 1.5~2 か月程度) となっ  
ている。オープン価格。販売開始は 9 月から。

アバーリモートカメラの製品シリーズである PTC シ  
リーズの機種において、今回、光学 12 倍ズームフル  
HD1080p/60fps に対応した「PTC310HWV2」 (製  
品カラー：白のみ)、光学 21 倍ズーム 4kp/30fps に  
対応した「PTC320UV2」 (黒のみ)、光学 30 倍ズー  
ム 4K/30fps に対応した「PTC330UV2」 (黒のみ)  
の 3 機種を発売する。



PTC シリーズ (写真提供：アバー・インフォメーション)

出力端子については、どのモデルも HDMI と USB、  
IP 端子を持つが、後者 2 機種の PTC320UV2 と  
PTC330UV2 については 3G-SDI 端子にも対応してい  
る。

これら 3 機種はターゲットを自動で追尾・撮影する  
「AI 自動追尾」機能が搭載されている。AI による高  
精度の人物検知機能により、ターゲットを逃さず追  
尾・撮影する。ターゲットの追尾方法は、「プレゼン  
ターモード」「ゾーンモード」「ハイブリットモード」  
と 3 種類あり、利用シーンに合わせて最適なモードを

選択できるようになっている。

一方、俊敏かつ正確なカメラモーションと滑らかな  
高性能ズームが特徴である PTZ シリーズにおいては、  
4K/60fps 対応の以下 2 機種が加わった。

PTZ シリーズにおいては、光学 12 倍ズーム  
4K/60fps 対応の「PTZ2310UV2」 (白のみ)、光学  
30 倍ズーム 60fps 対応の「PTZ330UV2」 (白のみ)  
を発売する。いずれの機種も出力端子は、  
HDMI/USB/IP/3G-SDI 端子を持つ。



PTC シリーズ (写真提供：アバー・インフォメーション)

HDMI/USB/IP の 3 系統で、最大 4K/60fps の映像出  
力に対応しており、動画配信から高画質の動画コンテ  
ンツの撮影まで、幅広いシーンで活用できるモデルと  
なる。

## ■ビジネス動向-国内

### ■ヤマハ：遠隔会議向けビデオサウンドバー 「CS-800」がバルコ社「ClickShare Conference」の認証を取得

(9月14日)

ヤマハ株式会社 ( <https://sound-solution.yamaha.com/products/uc/> ) (静岡県浜松市)  
のビデオサウンドバー「CS-800」が、バルコ株式会  
社 ( <https://www.barco.com/ja> ) (東京都大田区) の  
展開するワイヤレスコンファレンスソリューション



「ClickShare Conference」の認証を取得した。



ヤマハCS-800 (写真提供：ヤマハ)

CS-800は、マイクとスピーカー、カメラを内蔵した一体型のビデオサウンドバー。ヤマハ独自の音声解析技術とカメラの映像解析技術にAI技術を掛け合わせ、使用される会議スペースと会議参加者を自動認識した上で、新開発の「Hexa-Microphone」が会議参加者の声を“見つけて”收音し、認識した映像と音声を周囲の環境に合わせて自動補正することで、安定的かつ高品質な通話体験を提供する。

CS-800とClickShare Conferenceを組み合わせることで、会議参加者のPCと会議室のビデオサウンドバーCS-800・ディスプレイはワイヤレス接続となり、スマートな会議を実現するという。

## 導入利用動向-国内

### ■ブイキューブ：自然言語処理AIのGPTを活用した「V-CUBE セミナーGPT」日立ソリューションズグループ主催セミナーに導入

(9月11日)

株式会社ブイキューブ (<https://jp.vcube.com/>) (東京都港区)は、自然言語処理AIのGPTを活用した「V-CUBEセミナーGPT」が、7月18日に開催された、日立ソリューションズグループで開催されたダイバーシティイベントで導入された、と発表した。

V-CUBE セミナーGPT が利用された日立ソリュー

ションズグループ5社のダイバーシティイベントでは、これまでも自社でライブセミナーは行っていたが、今回からリアルとオンラインのハイブリット開催ということで、リアル会場の準備、カメラワーク、配信システムの設定、機材操作とやることが多岐にわたるため、開催にあたり、配信を任せられる外部パートナーへの依頼を検討していた。

ブイキューブはハイブリット配信のトータルサポートを提供していること、また、聴覚障害のある方へもメッセージを届けられる文字お越しも配信機能に追加されているため、日立ソリューションズグループ5社は、ハイブリット開催のトータルサポート、システムの安定性、文字お越し機能がある、といった3点を評価し、今回の導入となった。

一方、イベント参加後の参加者からの評価も高く、「オンラインで聴講したが、講師の熱量が伝わってきた」「臨場感があった」などの声もあった。また、事務局からも配信部分もすべてお任せでき、進行のみに集中できた、事前の下見から打ち合わせと丁寧にサポートしてもらったなどの感想があった。

なお、法人向けライブ配信サービス V-CUBE セミナー GPT は、GPT を活用し、イベント事前情報などを組み合わせ、自動かつリアルタイムで、セミナー講演内容の文字起こしによる「自動議事録」「自動要約」作成機能を提供している。OpenAI とデータ利用契約に関するデータプロセス契約を締結し、OpenAI の API を利用した際にお客様データが学習などに利用されないよう、お客様のデータ機密性を守っている。

## セミナー・展示会情報

### <国内>

#### ■イノベーションの必須条件 Tokyo

日時：10月12日（木）13:00～17:00

会場：Kabuto One 4F ホール

主催：ミロ・ジャパン合同会社

詳細・申込：<https://miro.com/innovation-imperative/tokyo>

#### ■ブイキューブセミナー情報（9月）

「Zoom と Realwear で実現する遠隔作業支援セミナー」  
「ぶらっとオフィス見学 Days！ 工事不要・消防法対応の個室ブースを体験しよう！」「低コストで効き目をすぐ実感！電話から始めるオフィス業務改革」「専門エンジニアが徹底比較！SkyWay や Amazon Chime など WebRTC サービス勉強会」など

会場：オンライン／オンデマンド／東京

主催：株式会社ブイキューブ

詳細・申込：<https://jp.vcube.com/event/all>

#### ■Webex Meetings 関連ウェビナー（9月）

「【利用者向け】Cisco コラボレーション デバイス (初級)」など。

会場：オンライン/オンデマンド（2020年以降録画）

主催：シスコシステムズ合同会社

詳細・申込：[https://www.cisco.com/c/m/ja\\_jp/training-events/events-webinars/collaboration-webinars.html](https://www.cisco.com/c/m/ja_jp/training-events/events-webinars/collaboration-webinars.html)

### <海外>

#### ■Zoomtopia 2023

日時：10月3日～4日

会場：サンノゼコンベンションセンター  
（米国・カリフォルニア州）/バーチャル

主催：Zoom Video Communications

詳細・申込：<https://zoomtopia.com/>

#### ■Webexone 23

日時：10月24日～26日

会場：アナハイムマリオット（米国・カリフォルニア州）  
&バーチャル

主催：米シスコシステムズ

詳細・申込：<https://www.webexone.com/>

国内その他：<https://cnar.jp/cna/event-j.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。  
CNAR.jp サイトの情報もご参照ください。

## 業界の動き

遠隔会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月2回（プレスリリースと取材に基づく記事のみ）ですが、CNAレポート・ジャパンでは、それ以外の業界の動きに関連した国内外の情報を日々皆さんと共有しています。皆様の情報収集のひとつとしてご活用いただければ有難いです。

#### ■フェイスブック（遠隔会議&UCトレンドワッチ）

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

#### ■Twitter（遠隔会議&UCトレンドワッチ）

<https://twitter.com/cnarjapan>

#### ■メーリングリスト（dtc-forum）

<https://cnar.jp/cna/dtcforum-ml.html>

## 定期レポートバックナンバー

定期レポートのバックナンバー（1999年～最新号）は下記 URL で閲覧できます。

<https://cnar.jp/cna/cnareportarchive.htm>

CNAレポート・ジャパン 2023年9月15日号

ホームページ：<https://cnar.jp> お問い合わせ：[cnar@cnar.jp](mailto:cnar@cnar.jp)